

うたうって言ったらさあ

M「恒例年末年始シリーズ。今年はなんと『うた』です。なんで歌？歌好きだっけ？」
 F「いやいや歌といってもsingの歌とは限らないじゃないですか。短歌とか俳句とかも『うた』ですよ」
 T「…今回は『詠う』を使いたいです」
 M「あら、和歌を詠む的な？風流ねえ。『うたう』といっても色々な漢字があるよね。『歌う』『詠う』のほかは『謳う』『謡う』『唄う』とか。」
 F「使いわけが難しそうですね。これらを全部ひっくるめた『うたう』の展示にしましょう!!」
 M「でもさあ詩吟とかも歌の一種だと思うけど、あれ『うたう』って言わないよね。ホラ、『吟じます!』って昔あったじゃない。吟じるって何よ？詩吟だけの動詞なのかな」
 F「吟じるとき？吟じれば???五段活用できますね♪」
 M「…活用してどうする。こうしてみると奥が深いうたの世界。基本はやっぱり歌唱の『歌う』なんだろうけど。みんな好きなアーティストとかいるわけ？え？私はもちろん中学の頃からF様一筋だけどさ」
 F「(聞いてませんよー)私はライブハウスとか行きますよ。誰のかは秘密ですけど」
 T「私は…母がよく●●を聴いていて」
 M「おお…やはり私はTちゃんの母上と世代が近いな。懐かしい!」
 F「ライブ会場とかで一緒に歌うと気分いいですよ」
 M「騒音で自分の声も他人の声も聞こえないから大声出し放題だものね。一人で歌うのはちょっと嫌だけど」
 T「…学校の歌のテストで、みんなの前で歌うのが…嫌で…」
 F「うわ。泣くのツ？待って待って。」
 M「お正月なんだからもっと楽しい歌の話をするのよ!」
 F「年末年始で歌といえば『第九』でしょうか。ベートーヴェン」
 M「私歌ったことあるわよ第九。合唱メンバーに入れてもらって」
 F「あれって確かドイツ語では？」
 M「んーそうね。意味わからず歌いました。でもオーケストラと一緒に歌って気持ち良かったよ。ベートーヴェン天才!って思うくらい」
 F「今年はニューイヤーコンサートをチェック!」
 T「…ドイツ語」
 M「いや、そこは勉強しなくていいから」

インスタグラム公開中 ここにアクセスしてね★

<https://www.instagram.com/hondarake55>



←QRコードでも
アクセスできます

ホンダラケ

2023. 12.1

年末年始は声を出せえ

M「さあさあ大口開けてあああああ〜」
 F「いきなりオペラ!？」
 T「そんな特技が?」(ありません)

『歌う鳥のキモチ』

石塚 徹/著 山と溪谷社 2017年刊



488.1/17

地球上で歌う生き物と言えば鳥。「さえずる」って鳥のためにあるような言葉ですよ。何が楽しいんだか可愛い声でピロピロ歌う声を外で聞くと気分も上がります。鳥だってただ気分歌っているわけではなく、ちゃんと理由があります。求婚はもちろん、なわばりの主張もアリ。そして南国の鳥はオスとメスがデュエットするそう。まるでディズニー映画みたいじゃないですか！種類によっても歌うキモチが違うという鳥の世界。のぞいてみたら君もハマって歌いだすかもね。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「ミステリー」
さあさあ、こたつでまったり謎解きしましょ。

『ホワイトラビット a night』

伊坂幸太郎／著 新潮社 2017年刊



F/イサ

新妻が誘拐された男、とある秘密を抱えた家族、オリオン座の秘密を語る変な男など。個性豊かで魅力的な登場人物達により、起きた事件が同時に語られています。

どの語り口もユーモアがあふれていて、おもしろくテンポよくストーリーが進みます。まだ伊坂幸太郎作品を読んだことのない人も全てを疑ってこの物語に挑んでみて下さい。

P.N. バリツ (中学3年生)

「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介します

『源氏物語 紫の結び』 紫式部／著 荻原規子／訳 理論社 2013年刊



913.3/ムラ

2024年1月から始まる大河ドラマ『光る君』は、紫式部の『源氏物語』がモチーフ。年末年始にかけて、話題になっていますね。中高生のみなさんも、授業で抜粋されたものを読んだのではないのでしょうか。

この作品は、勾玉三部作などファンタジー作品を多数手がける著者が語りなおした『源氏物語』。主要な帖を抜粋し、順番を組み換え、和歌も意識。何より、出世などで呼び名が変わる登場人物についての注がちゃんとある！おかげで、とても読み進めやすくなっています。『源氏物語』ってなんだか退屈、という人にこそ読んでいただきたい作品です。

新着図書 Pick Up

『モノクロの街の夜明けに』

ルータ・セパティス／著 野沢佳織／訳 岩波書店 2023年刊



933/セペ

この本の舞台は1989年のルーマニア。チャウシェスクの独裁に、人々は監視におびえ、規制だらけの生活を強いられていました。17歳の高校生、クリスティアンも、そのひとり。ある日、彼はルーマニアの諜報員に密告者になるよう命じられ、家族にも親友にも言えない秘密を抱えてしまいます。その苦しみや自由への思い、そしてルーマニア革命までの日々がつづられた物語です。もしも、あなたたちがクリスティアンと同じ状況にあったとしたら、どんな気持ちでいて、なにを大切にしたいと思うのでしょうか。この本をきっかけに、世界で起きていることを知ってみようと感じてもらえたら、と思う作品です。

難しいと思われているけれど、実は面白い名作があるから読んでみてほしいんです。

『詩集『山羊の歌』より』

中原中也／著 まくらくらま／絵 立東舎 2022年刊

今回は、文豪の名作と人気イラストレーターのコラボシリーズから詩集をオススメ。

「汚れつちまつた悲しみに……」で有名な文豪、中原中也の独特な表現からうまれた詩の世界観。まくらくらまさんの、西洋チックで、はかなく美しいイラスト。そのふたつが合わさったこの本は、もう、ひとつの芸術作品です。時間がゆっくり過ぎていくような雰囲気とともに、イラストで描かれる人物が詩をくちずさんでいるように思える場面も楽しめる一冊です。



911.5/ナカ